

米国国家宇宙会議 概要

内閣府宇宙開発戦略推進事務局

本年12月1日、米国バイデン政権下で初めて国家宇宙会議(National Space Council)(於:ワシントン DC)が開催された。同会議では、議長を務めるハリス副大統領からバイデン政権での宇宙政策の優先事項をまとめた「Space Priorities Framework」を発表。

1. 米国国家宇宙会議(National Space Council)について

・ホワイトハウス行政府に属し、大統領に対し宇宙政策・戦略の立案・実施の助言を行う政策会議。
・議長はカマラ・ハリス副大統領。事務局長はシラク・パリク氏。(構成員は、国務長官、国防長官、内務長官、農務長官、商務長官、労働長官、運輸長官、エネルギー長官、教育長官、国土安全保障長官、国家気候アドバイザー、NASA 長官等。)

2. 会議概要

(1) 冒頭発言

ハリス副大統領から、構成員の追加と Space Priorities Framework について説明ののち、活発化する宇宙活動と民生・商業・安全保障の間で協調・連携が必要であること、それらにより生活に恩恵をもたらすことを本会議の目的とする旨発言。

(2) 議題①: ルールメイキング・規範化

ハリス副大統領よりロシアにおける ASAT に言及し、宇宙活動に関する脅威・リスクが生じていること、これらに対する米国の責務としてのルールメイキング・規範化が重要であることを提起。その後商務省、運輸省、国務省、国防省、安全保障大統領補佐官より、宇宙交通管理(STM)や宇宙状況把握(SSA)等の取組状況を報告。

(3) 議題②: 気候危機への対応

ハリス副大統領より衛星画像等の膨大なデータが蓄積されており、これらのデータを活用して恩恵を得る国民を拡大するためにはどうしたら良いか課題を提起。その後農務省、国土安全保障省、エネルギー省、気候変動大統領補佐官より、データの更なる高度化や観測対象物質の拡大(メタン)等の取組状況を報告。ハリス副大統領より、宇宙データを用い世界に対し米国のリーダーシップを強めるための方策を検討するよう指示が出された。

(4) 議題③: 科学・技術・工学・数学(STEM)人材の強化

ハリス副大統領より宇宙も活用した次世代を担う子供たちへの啓蒙、新たな労働・職業機会の創出について取組課題を提起。国家情報局、NASA、教育省、労働省、内務省、科学技術政策局、農務省より取組状況を報告。

3. 「Space Priorities Framework」骨子

(1) 米国は宇宙活動により裨益する

(ア) 米国のイノベーションと機会の源としての宇宙

宇宙活動は米国経済と生活様式に力を与える

宇宙技術の開発はイノベーションを促す

宇宙能力は米国の資源管理、極限の気象状況への対応を支える。

宇宙は我々を啓発する(inspire)。

(イ) 米国のリーダーシップと強さの源としての宇宙

宇宙での成果は米国のリーダーシップを示す(demonstrate)。

宇宙活動は米国の国際パートナーシップを拡大・深化する。

宇宙は米国の国家安全保障や、世界中の危機への対応能力を支える。

(2) 米国の宇宙政策の優先事項

(ア) 強靱で責任ある米国宇宙エンタープライズの維持

宇宙探査と宇宙科学でのリーダーシップを維持する。

気候変動に対応するため地球観測能力の開発・利用を進める。

競争力がある米国産業のための政策・規制環境を育成する。

重要な宇宙インフラを防護し米国の宇宙産業基盤の安全を強化する。

質・量ともに拡大する宇宙・対宇宙の脅威から米国の安全保障上の利益を保護する。

次世代に投資する。

(イ) 現在・将来世代への宇宙の保全

宇宙活動のグローバル・ガバナンスの強化をリードする。

宇宙状況把握(space situational awareness)の共有や宇宙交通調整(space traffic coordination)を強化する。

宇宙の持続性(space sustainability)と惑星保護(planetary protection)に優先的に取り組む。

(以上)